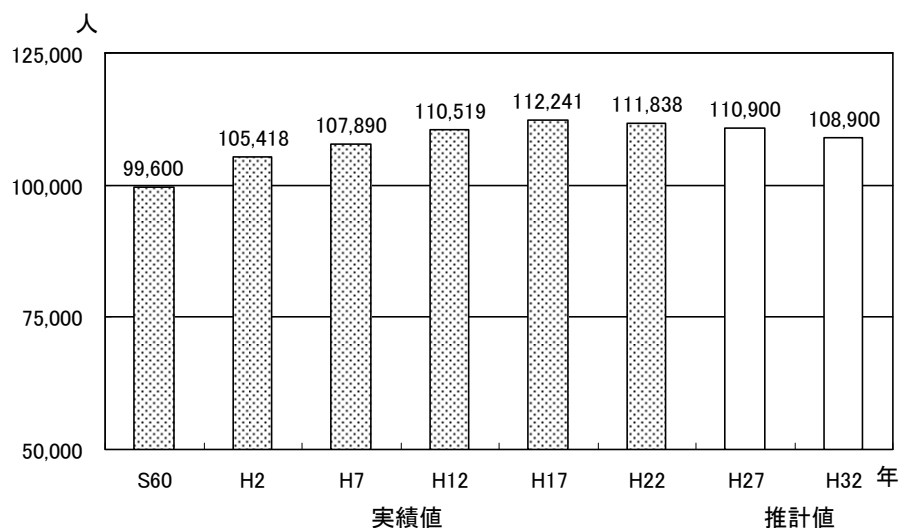


## 第2章 三島市の健康に関する現状と課題

### 1 人口

#### 1) 人口の推移と将来予測

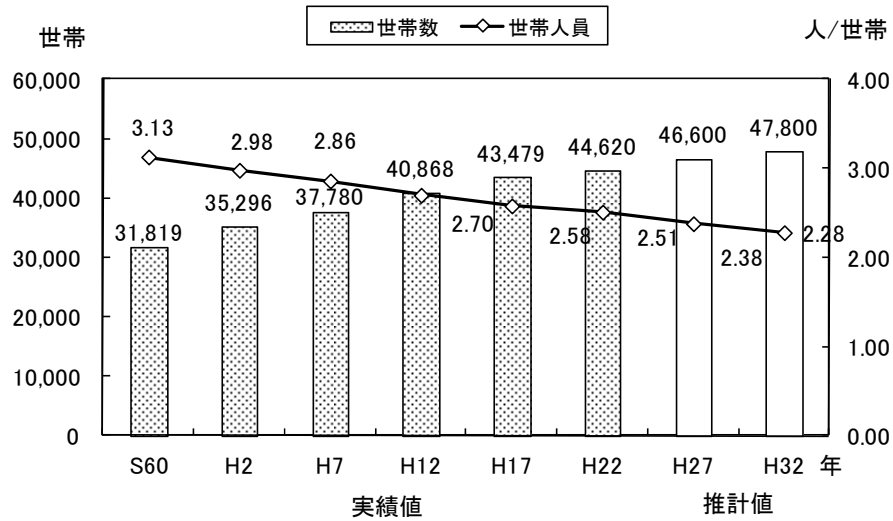
図1-1 総人口の推移と予測



資料：実績値 国勢調査  
推計値 政策企画課

総人口の推移と予測を見ると、平成17年の112,241人をピークに、平成22年には減少に転じています。その後も減少が続くと予測されています。

図1-2 世帯数、1世帯当たりの平均人員の推移と予測

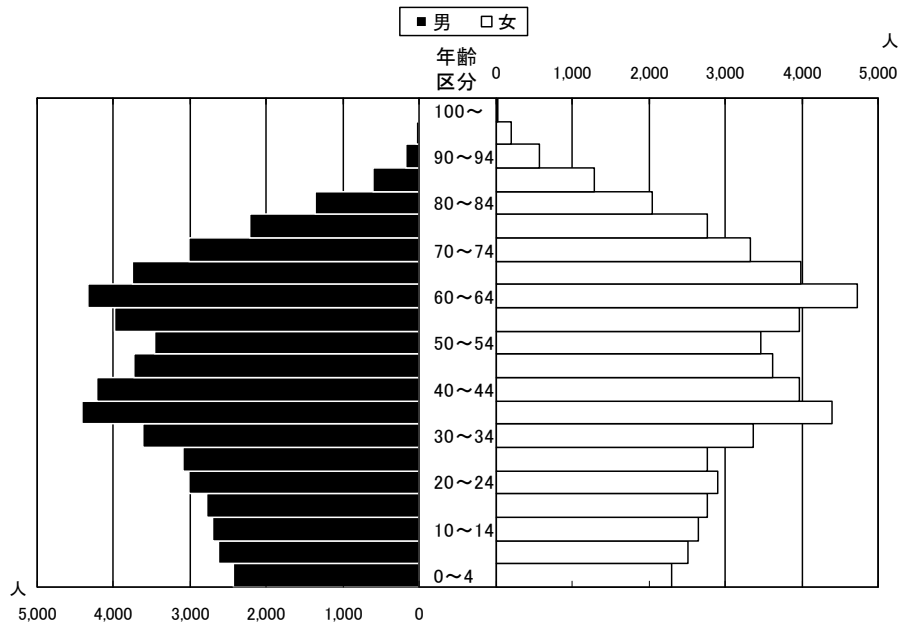


資料：実績値 国勢調査  
推計値 政策企画課

人口が減少に転ずる一方で、世帯数は年々増加傾向にあり、核家族化、夫婦のみ世帯や単身世帯が増加していることを示しています。

1世帯当たり人員が減少傾向にあることがわかります。

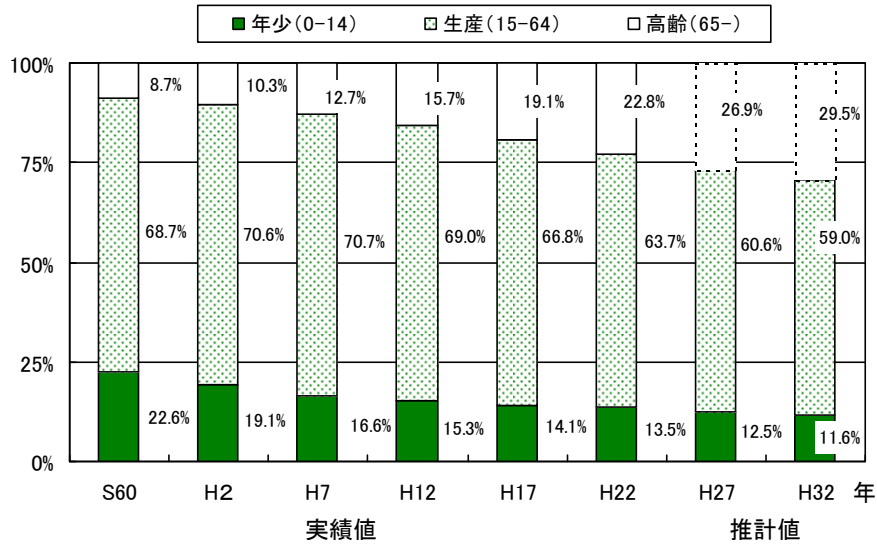
図1-3 5歳階級別人口ピラミッド



資料：国勢調査（平成 22 年）

平成 22 年時点の人口ピラミッドを見ると、人口が最も多いのは、いわゆる「団塊の世代」を中心とした 60～64 歳となっており、その年齢以上の高齢化が進んでいます。続いて多いのは 35～39 歳の団塊の世代の子どもたち、いわゆる「団塊ジュニア世代」となっています。

図1-4 人口構成の推移と予測



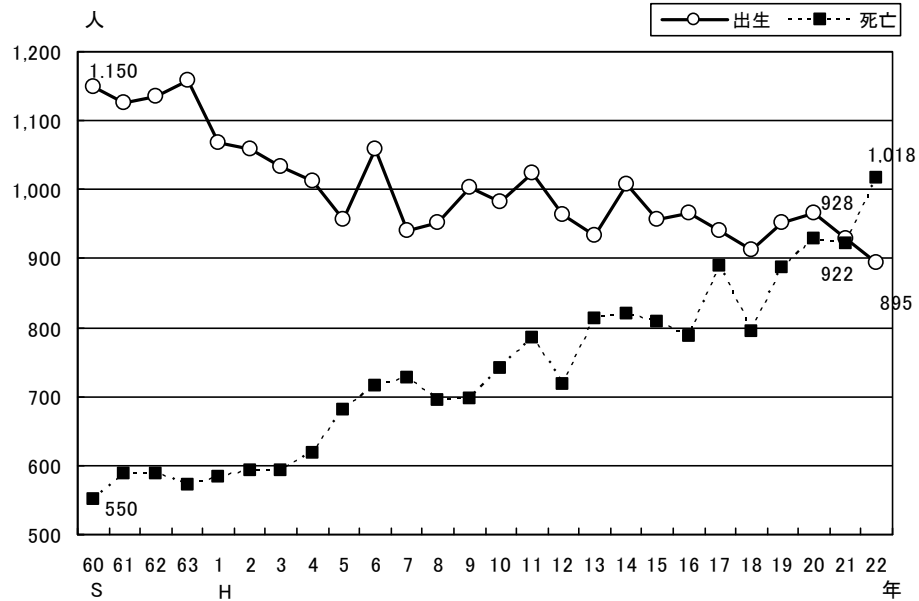
資料：実績値 国勢調査

推計値 政策企画課

人口構成の推移と予測を見ると、少子高齢化が進行し、平成12年において、年少人口と高齢人口が逆転しています。今後も年少人口と生産人口の減少傾向は続く一方、平成32年の高齢人口は約3割に達する見込みとなっています。

## 2) 人口動態

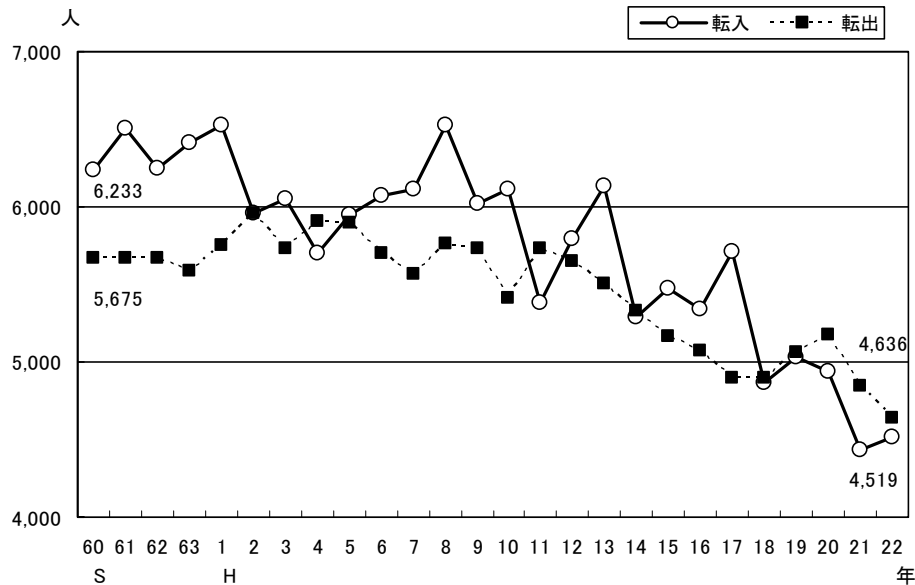
図1-5 自然動態



資料:三島の統計

自然動態を見ると、平成 22 年に出生数 895 人、死亡数 1,018 人となり、死亡数が出生数を上回っています。

図1-6 社会動態

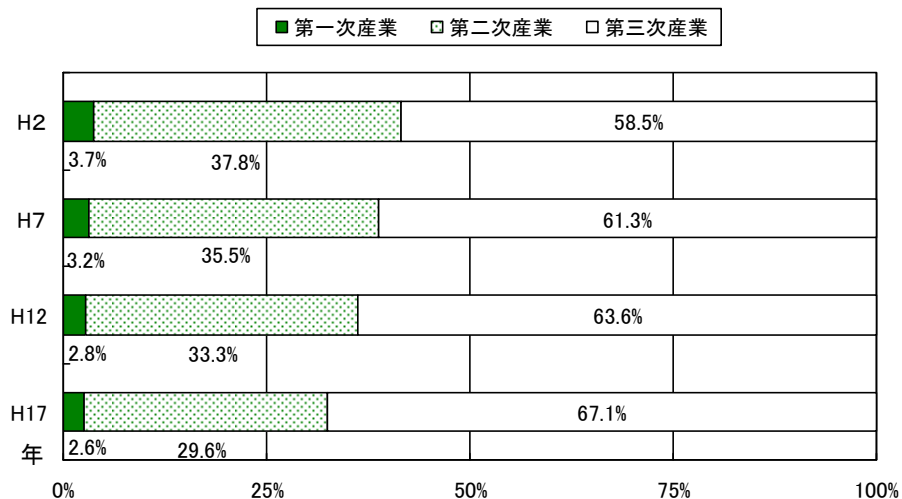


資料:三島の統計

社会動態を見ると、昭和 60 年以降、おおむね転入が転出を上回る状況にありましたが、ここ 5 年間は逆転しています。

### 3) 就業人口

図1-7 産業別就業人口割合

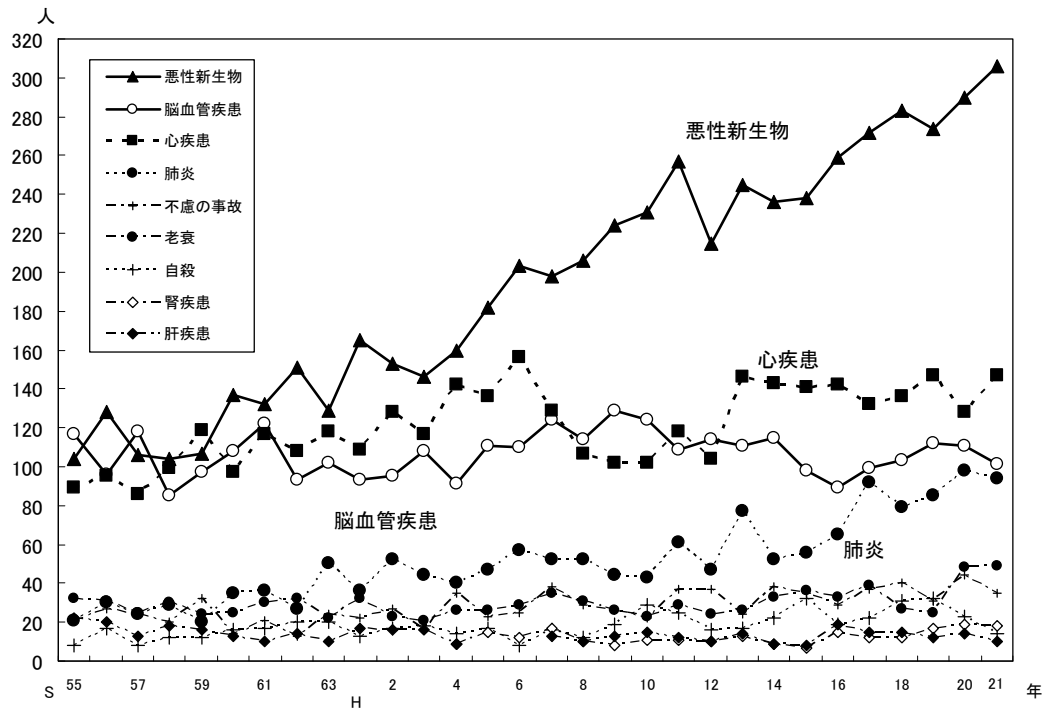


資料:国勢調査

産業別就業人口割合を見ると、第一次産業の割合は低い状況にあり、第三次産業就業者、いわゆるサービス産業を中心とした就業割合が高くなっています。また、年を追うごとに第二次産業就業者が徐々に減る一方、第三次産業就業者の割合が高まってきており、平成17年には7割近くを占めるまでになっています。

## 2 保健・医療

図2-1 死因別死亡数の推移



資料:静岡県人口動態統計(昭和55～平成21年)

表2-1 死因順位別死亡数の推移

年度	H17		H18		H19		H20		H21	
	総数		総数		総数		総数		総数	
	総数	887	総数	882	総数	886	総数	958	総数	929
第1位	悪性新生物	272	悪性新生物	283	悪性新生物	274	悪性新生物	290	悪性新生物	306
第2位	心疾患	132	心疾患	136	心疾患	147	心疾患	128	心疾患	147
第3位	脳血管疾患	99	脳血管疾患	103	脳血管疾患	112	脳血管疾患	111	脳血管疾患	101
第4位	肺炎	92	肺炎	79	肺炎	85	肺炎	98	肺炎	94
第5位	老衰	39	不慮の事故	40	自殺	32	老衰	48	老衰	49
第6位	不慮の事故	37	自殺	31	不慮の事故	31	不慮の事故	44	不慮の事故	35
第7位	その他呼吸器	27	老衰	27	老衰	25	その他呼吸器	32	その他呼吸器	18
第8位	自殺	22	その他呼吸器	21	その他呼吸器	25	自殺	23	自殺	14
-	その他	167	その他	162	その他	155	その他	184	その他	165

資料:静岡県人口動態統計(平成17～21年)

死因順位別死亡数の推移では、昭和60年代より悪性新生物(がんなど)が死因の第1位を占めています。以降、心疾患、脳血管疾患といった生活習慣に関連する死因が続き、第4位は肺炎となっています。また、毎年、20名前後の人が自殺で亡くなっています。

表2-2 国民健康保険加入者の年齢階級別・疾病分類別受診率

年齢階級別疾病分類別受診率 ①入院

単位 %

年齢区分	1位		2位		3位	
	疾病分類	受診率	疾病分類	受診率	疾病分類	受診率
～4	周産期に発生した病態	0.75	呼吸器系の疾患	0.50	妊娠、分娩及び産じょく 他5疾病	0.12
5～9	損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.11	先天奇形、変形及び染色体異常	0.11	消化器系の疾患	0.11
10～14	新生物	0.10	精神及び行動の障害	0.10	—	—
15～19	神経系の疾患	0.17	消化器系の疾患	0.17	精神及び行動の障害	0.80
20～24	妊娠、分娩及び産じょく	0.24	精神及び行動の障害	0.08	腎尿路生殖器系の疾患 他2疾病	0.08
25～29	妊娠、分娩及び産じょく	0.23	消化器系の疾患	0.15	損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.15
30～34	精神及び行動の障害	0.13	感染症及び寄生虫症	0.06	腎尿路生殖器系の疾患	0.06
35～39	精神及び行動の障害	0.23	病状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.23	妊娠、分娩及び産じょく	0.17
40～44	精神及び行動の障害	0.33	損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.16	新生物 他4疾病	0.05
45～49	精神及び行動の障害	0.60	神経系の疾患	0.20	筋骨格系及び結合組織の疾患	0.13
50～54	精神及び行動の障害	0.83	新生物	0.38	神経系の疾患	0.32
55～59	精神及び行動の障害	0.45	循環器系の疾患	0.24	腎尿路生殖器系の疾患	0.16
60～64	精神及び行動の障害	0.59	新生物	0.35	循環器系の疾患	0.27
65～69	新生物	0.45	循環器系の疾患	0.34	精神及び行動の障害	0.18
70～74	新生物	0.61	循環器系の疾患	0.52	精神及び行動の障害	0.25
合計	精神及び行動の障害	0.30	新生物	0.27	循環器系の疾患	0.22

資料：三島市国民健康保険 年齢階級別疾病分類諸率表より作成（平成22年5月）

30代以上の年代において、精神及び行動の障害による入院が目立ちます。そのため、こころの健康の維持・増進に向けた知識の普及啓発が重要です。また、65歳以上では、死亡統計と同じく、新生物、循環器系の疾患が多くなっています。

年齢階級別疾病分類別受診率 ②入院外

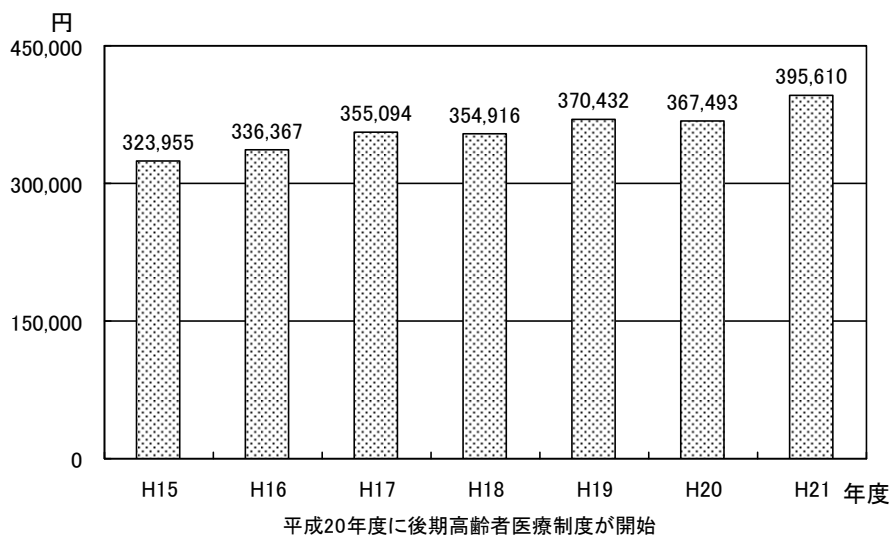
単位 %

年齢区分	1位		2位		3位	
	疾病分類	受診率	疾病分類	受診率	疾病分類	受診率
～4	呼吸器系の疾患	43.23	皮膚及び皮下組織の疾患	10.24	感染症及び寄生虫症	7.58
5～9	呼吸器系の疾患	27.54	消化器系の疾患	13.02	歯科	12.11
10～14	呼吸器系の疾患	14.56	消化器系の疾患	6.15	眼及び付属器の疾患	6.05
15～19	呼吸器系の疾患	6.76	消化器系の疾患	5.07	歯科	4.09
20～24	消化器系の疾患	6.22	呼吸器系の疾患	5.42	歯科	4.93
25～29	消化器系の疾患	9.85	歯科	7.64	呼吸器系の疾患	6.06
30～34	消化器系の疾患	10.45	歯科	8.11	呼吸器系の疾患	6.12
35～39	消化器系の疾患	9.98	歯科	8.25	精神及び行動の障害	5.88
40～44	消化器系の疾患	10.26	歯科	7.80	精神及び行動の障害	5.21
45～49	消化器系の疾患	12.65	歯科	9.35	精神及び行動の障害	5.65
50～54	消化器系の疾患	13.90	歯科	10.36	循環器系の疾患	7.79
55～59	消化器系の疾患	14.97	循環器系の疾患	13.65	歯科	11.58
60～64	循環器系の疾患	19.75	消化器系の疾患	17.91	歯科	13.59
65～69	循環器系の疾患	25.09	消化器系の疾患	21.51	歯科	16.24
70～74	循環器系の疾患	34.52	消化器系の疾患	24.90	歯科	17.92
合計	消化器系の疾患	15.91	循環器系の疾患	14.89	歯科	12.06

資料：三島市国民健康保険 年齢階級別疾病分類諸率表より作成（平成22年5月）

乳幼児期から思春期にかけては、風邪などの呼吸器系の疾患が特に多くなっています。また歯科は、ほとんどの年齢で、受診率の上位を占めているため、むし歯・歯周病予防が必要です。50代後半からは、循環器系の疾患も上位を占めているため、若い世代からの生活習慣病予防の知識の普及も重要です。

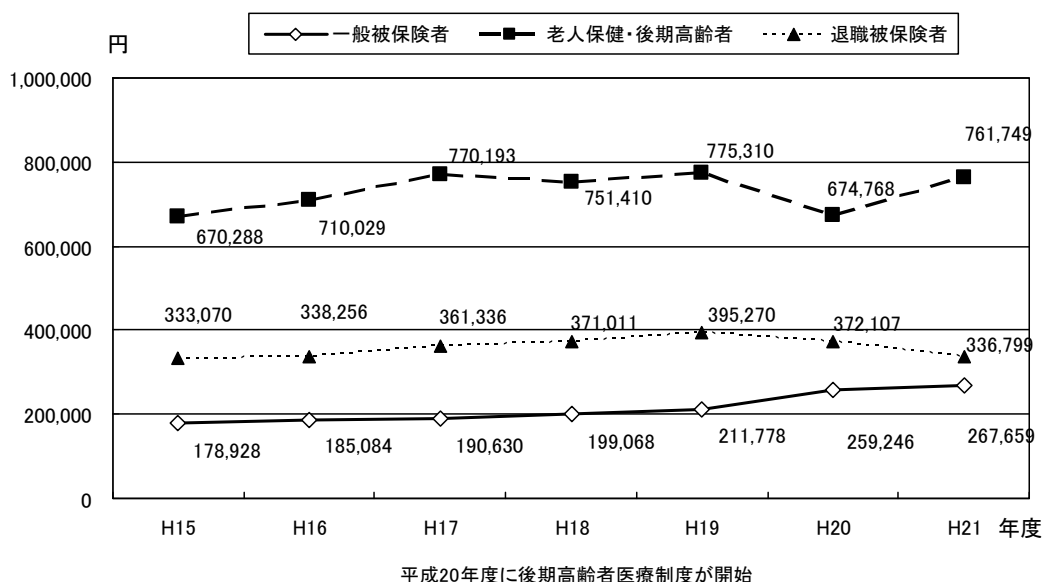
図2-2 国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入者1人当たりの医療費



資料:三島の統計

国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入者1人当たりの医療費は年々増加しており、財政等を圧迫しつつあるため、予防を重視した対策が必要となってきています。

図2-3 国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入種類別1人当たりの医療費



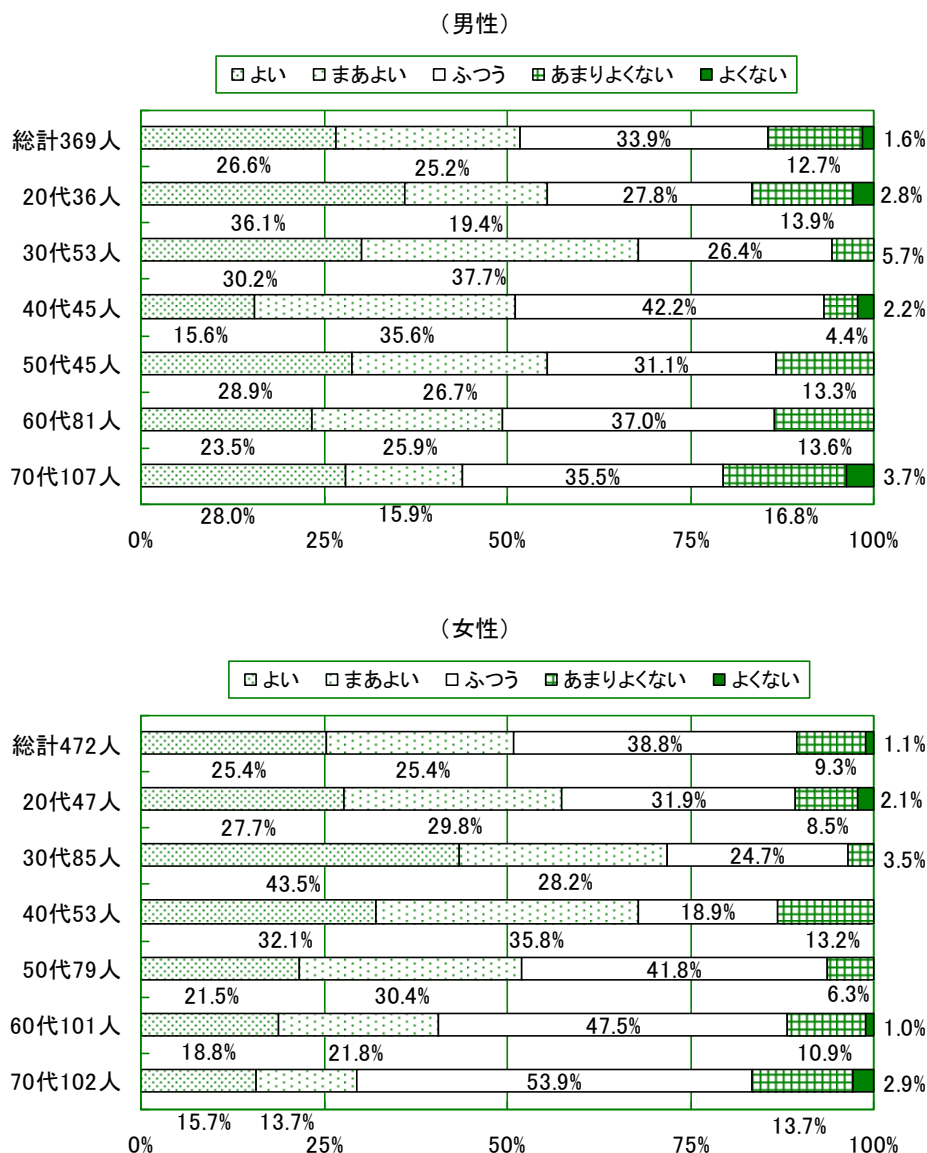
資料:三島の統計

国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入種類別1人当たりの医療費を見ると、老人保健・後期高齢者にかかる医療費が群を抜いて多いことがわかります。

一方、一般被保険者の医療費も年々増加し、平成21年には大幅に増加しています。



図2-4 自身の健康状態に関する意識

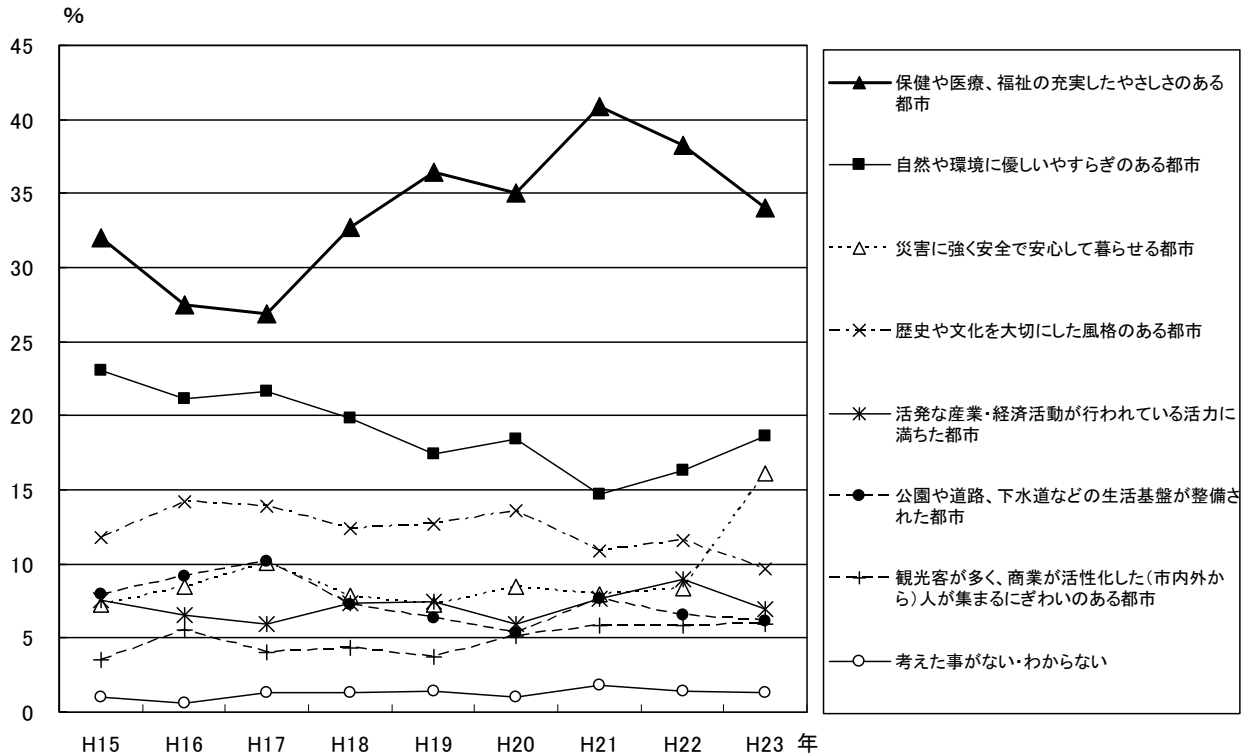


資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成23年）

男女共、全体としては「よい」「まあよい」と回答している人は30代をピークに年齢を重ねるとともに徐々に下がっていきます。そのなかで、男性の40代で「よい」と回答している人が少ないことが目立ちます。

### 3 市民の望む三島市の将来像・施策満足度

図3-1 市民の望む三島市の将来像



資料:三島市市民意識調査(平成15~23年)を基に作成

市民の望む三島市の将来像では、「保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市」が毎年1位となっており、健康に対する関心の高さがうかがえます。

今後、市民の望む将来像の実現に向け、健康を個人の責任としてだけ捉えるのではなく、市の重要施策として「健康づくり」を推進していく必要があります。

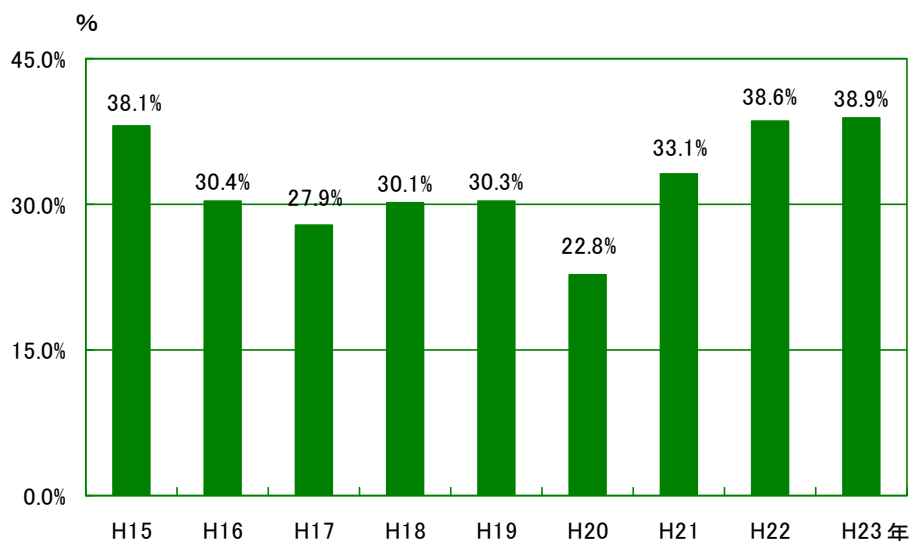
表3-1 平成23年度 満足率(全41項目のうち上位10項目)

順位	項目	分類	満足率
第1位	「広報みしま」による市政情報の提供	協働行財政	58.1%
第2位	ごみ・リサイクル対策	環境保全	47.1%
第3位	公園・緑地の整備	環境保全	47.0%
第4位	美しい景観（都市・自然・歴史）の保全・形成	環境保全	41.8%
第5位	健康診査、健康相談等の健康増進	健康・福祉	38.9%
第6位	下水道の整備	環境保全	36.5%
第7位	三島駅周辺（北口・南口）の整備	都市基盤	34.5%
第8位	日常での医療サービスを受ける環境	健康・福祉	33.5%
第9位	消防・救急体制の確保	市民生活	30.4%
第10位	生涯学習の振興	教育文化	27.3%

資料:三島市市民意識調査（平成23年）

基盤整備やごみ収集など目に見えて評価できる項目が上位を占めているなか、目に見えないソフト部門のうち評価が高いものとして第5位に健康増進事業があげられています。

図3-2 健康診査、健康相談等の健康増進に対する満足度の推移



資料:三島市市民意識調査（平成15～23年）

市が行っている健康増進施策に対する満足度ですが、他の施策と比較すると相対的に満足度は高い状況にあります。また、近年、評価は徐々に上がりつつあります。